

## 松任駅南地区賑わい創出事業

団体名 ● 新ゼミナール、齋藤ゼミナール、梅田ゼミナール、牧野ゼミナール

代表者名 ● 新広昭(経済学部経済学科教授) / 齋藤千恵(人文学部国際文化学科教授) / 梅田充(経済学部経営学科講師) / 牧野耀(経済学部経営学科助教)

### 【活動の総括】

#### はじめに

本事業は、公益社団法人大学コンソーシアム石川主催の、令和2年度地域課題研究ゼミナール支援事業『地域課題発掘枠』として白山市と連携して行ったものである。

白山市の重要な地域課題の一つに白山市のゲートウェイともいうべき松任駅南側地区の賑わい創出がある。同地区は、30年ほど前までは商業施設が複数立地し、松任市(当時)の賑わいの中心地であった。しかしながら、郊外の大型商業施設に、賑わいの中心が移るにつれ同地区の商業施設の撤退が相次いだ。白山市では同地区の再開発事業にとりかかり、公共の文化施設や民間の商業ビルが立地したが、賑わいが戻らず商業ビルからテナントの撤退が相次いでいる。市議会からも同地区の賑わい創出を求める質問・要望が出されている。こういった背景のもと、賑わい創出のターゲット層である「若者・学生」の視点からの提案が求められている。

そこで、4ゼミ合同の事業実施チームを結成し、各ゼミの強みを活かした調査活動・コンテンツ作成活動により、白山市に対して政策提案することを目的とした。

#### 活動内容

各ゼミの活動内容は地域課題発掘のための調査活動に2ゼミ(新ゼミ、梅田ゼミ)および調査活動の内容も踏まえたコンテンツ作成活動に2ゼミ(齋藤ゼミ、牧野ゼミ)である。ゼミごとの具体的な活動内容は次ページ以降で紹介する。なお、梅田ゼミの活動内容については本活動報告書の「自治体等との連携協定等に基づく地域連携促進事業」カテゴリーの「白山市」の項に記載した。



白山市観光ボランティアの方のアテンドによる  
4ゼミ合同現地視察の様子

#### 成果、結果の考察

松任駅周辺文化施設利用者の実態調査から、滞留性・回遊性向上に向けた課題を発掘することができた。

また、白山市松任地区全体の利便性調査から、松任駅南側地区を起点とした松任地区の利便性の向上に向けた課題を発掘することができた。

さらに、これらの課題を踏まえ、滞留性・回遊性の向上に向けた具体的なコンテンツとして、SNS向け及び動画サイト向けのバーチャルツアー・オンラインツアーの動画を複数作成することができた。

これらの成果は2021年2月20日にオンラインで開催された、大学コンソーシアム石川主催「2020年度大学・地域連携アクティブフォーラム-地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告会-」にて報告した。

また、3月2日には白山市に対してオンラインでの成果報告会を行い、高い評価をいただいたと考えている。

## 今後の課題、展望

2021年度以降も本年度の成果を踏まえ、引き続き白山市と連携し、「地域課題研究ゼミナール支援事業課題解決発展枠」にトライしたい。



白山市への成果報告会の zoom 集合写真

## 【ゼミナールごとの活動紹介】

### 【新ゼミナール】

#### はじめに

松任駅南地区(駅南側周辺地域から在来商店街を含む地域)の賑わい創出(滞留性・回遊性の向上)に向け、松任駅周辺の文化施設等利用者の動態を把握することを目的とする。

#### 活動内容

松任駅周辺の文化施設等(松任図書館、千代女の里俳句館、おやこの広場あさがおなど)の利用者(49名:男22%、女78%)へのアンケート調査および施設担当者からコロナ禍における利用者数の状況等の聞き取り調査を行った。

## 成果、結果の考察

### 【アンケート調査結果(一部)】

#### ・交通手段

図書館の利用者は徒歩・自転車が一定数(16%)いるが、全体として車利用が主体(84%)

#### ・施設の知名度

文化的施設>歴史的建造物(施設別では図書館が最も高く(93.8%)、北国街道の石碑が最も低い(20.4%)

#### ・松任駅周辺の買い物・飲食店の利用頻度

週2回以上(4.4%)、週1回程度(11.1%)、月1回程度(22.2%)、年1回程度(20.0%)、ほとんどない(42.2%)

#### ・コロナ禍による施設利用頻度の変化

増えた(2%)、変わらない(44.7%)、減った(53.2%)

アンケート調査結果からは、駅周辺に魅力的な施設が多く立地しているにもかかわらず、地元の間人がその魅力を十分に認識していない現状が浮かび上がってきた。インバウンドを中心に域外の観光客に施設の魅力をアピール・来訪してもらうことにより、地元住民に再認識してもらうことが重要と考える。

## ・活動結果に対する白山市担当者の方のコメント

松任駅南口側が文化ゾーンとして整備されてきたことから飲食店や商業施設が少なくなり、周辺施設利用者のニーズに合わなくなっていることや駅利用者と地域利用者が結びついていないことなどの課題も出てきた。今後さらに白山市の玄関口としての駅機能と文化施設や商店街周辺の回遊性等を検証していくことの重要性も見えてきた。

## 今後の課題、展望

本年度の調査結果を踏まえ次年度は、地域経済分析システム(RESAS)を活用した数値データによる分析を試みるとともに、松任の魅力をめぐる散策ルートを設定、インスタグラムを利用して情報発信し、駅周辺の飲食店やイベントのアピールにつなげる活動に取り組むこととしたい。



千代女の里俳句館での担当者の方の説明

## [齋藤ゼミナール]

### はじめに

松任駅周辺の賑わい創出という目的のもと、コロナ禍における観光の可能性を探るため、オンライン・ツアーを作成した。バーチャル・ツアーやオンライン・ツアーは、今までもあったが、コロナ禍の観光活動としてますます注目されている。本ゼミでのオンライン・ツアー作成は、次年度以降のオンライン・ツアーやバーチャル・ツアー作成のための試作品として位置づけられる。

### 活動内容

松任駅周辺を紹介する動画を作成するため、アンケート作成から動画撮影、編集を齋藤ゼミ3年生が行った。文化施設を主に扱い、そのほかに和菓子店を地元の店として紹介した。何を撮影するかは、学生たちがディスカッションの中で導き出した。松任駅周辺という限定された地域の、地元の人々が勧めるスポットを紹介しようという合意のもと、アンケートを作成し、ウィークデーの夕方に松任駅利用者に対してアンケート調査を行った。和菓子店や居酒屋、タピオカ・ドリンク店、ファミリーレストランといった店が駅利用者の勧める店であった。これらの店の内、今回のツアーでは和菓子店を扱った。撮影の際には、見た人が心惹かれるような画面を作るために、画面やそこに現れる解説、音楽を工夫した。特に、多くの人々が動画をスマホで視聴するため、縦長の画面で撮影した。また、より多くの人々が視聴できるように、英語と日本語の字幕を挿入した。

### 成果、結果の考察

学生たちは、自主的に、アンケートを作成し、動画を撮影、撮影場所の情報収集や字幕及び音楽挿入を行った。その結果、同じ動画ではあるが、音楽と字幕を異にする2種類の動画ができた。この2種類の動画において、松任駅周辺という限定された地域の、地元の人々が勧めるスポットについて、画面を作ることを、試行錯誤しながら学ぶことができた。動画として

は未熟な部分が目立つし、現在は、YouTubeで限定公開しかされていないが、松任駅周辺の魅力をどう伝えていけばいいのかということは検討できた。

反省点としては、アンケート調査の仕方が挙げられる。ランダムに調査対象者を選んだが、こうした調査をあまりしたことがない学生たちにとって、調査対象にしやすい人とそうではない人がいたようである。この点を将来的に克服していきたい。

### ・活動結果に対する白山市担当者の方のコメント

外国人向けも配慮しているところは、インバウンドの拡大に向けて重要であり、スマホの普及を考えるともっと発展させなければいけないと感じた。自分がある位置や観光の目的など複数の種類をつくる必要があると思われるので引き続き取り組んでもらえるとありがたい。特に食も体験できるような工夫をいただけるとありがたい。

### 今後の課題、展望

当初の予定では、バーチャル・ツアーを作成するはずであったが、厳密な意味でのバーチャル・ツアーでは、3Dカメラが必要であるため、今回はオンライン・ツアーとした。次年度は、松任駅周辺から離れた場所で、名所を含めたバーチャル・ツアーか、食を盛り込んだオンライン・ツアーの撮影を考えている。

#### オンライン・ツアー動画 version 2



松任駅周辺オンライン・ツアー画面

## [牧野ゼミナール]

### はじめに

本ゼミの活動では、若者の消費行動の初期段階の傾向を利用した、松任のにぎわい創出を目指して、動画を作成し松任の魅力を認識してもらうための提

案・発信を行った。松任の魅力ある場所を調査して、SNS向けのショート動画と動画サイト向けの松任1日観光プランの動画を作成した。オシャレなシーンとしての魅力訴求と、学生のスポット紹介や店主のインタビュー映像による魅力発信の2つの方向性で動画作成・発信することができた。

## 活動内容

昨年度の調査結果から、松任の地域の特徴や個性を活かして、若者も愛着を持てるようにすること、

松任に訪れる理由を増やせば、愛着に繋がれると考えられた。そこで松任には綺麗な場所や歴史的な施設が多くあることを活かしつつ、外出や旅行が制限されることを鑑みて、若者がよく触れるメディアを通して、松任の楽しみ方やおすすめのスポットを紹介することを目的とした。

具体的には、8月に松任駅南地区の現地調査、9月/10月にPR戦略のディスカッション、11月現地での動画撮影、12月/1月に動画作成、2月/3月に活動報告となった。動画作成では、SNS向けのショート動画と動画サイト向けの松任1日観光プランの動画を作成した。前者では魅力的な場面やシーンを紹介し、後者ではよりおすすめスポットやおすすめの遊び方などを発信する意図である。

動画撮影に際しては、カフェ店舗やラーメン店にPR動画撮影のインタビューの取材依頼を行い、撮影させていただいた。テロップや音楽を入れること、動画を組み合わせ、一日の移動スケジュールとして構成されていることなど工夫を行った。

## 成果、結果の考察

活動の成果として、松任の魅力ある場所を調査して、その魅力を動画として他者に伝達可能な形でまとめられたことが挙げられる。オシャレなシーンとしての魅力訴求と、学生のスポット紹介や店主のインタビュー映像による魅力発信の2つの方向性でまとめることができた。今回作成した、松任魅力発信動画をいかに多くの若者に視聴してもらうかが課題で

ある。

また地域課題研究ゼミナール『地域課題発掘枠』報告会にて、白山市役所の方々に活動結果について発表してコメントをもらう機会を頂いた。より惹きつける動画制作を目指すこと、行政と大学で協力し、お互いに得意な分野を担うことで、双方により効果をもたらす活動を行うなど、今後の活動の方向性に関して大変有用な示唆をいただいた。

## ・活動結果に対する白山市担当者の方のコメント

SNSを使った情報発信は若者だけでなくスマホやパソコンをはじめとした機器で手軽に情報収集する現代に大切であることは理解していたが、効果的な手法や何を訴えれば多くの人たちに魅力を伝え、松任駅周辺に来ていただけるかなど、学生から見た表現で分かりやすかった。ここで気づくことは、松任駅南口周辺の回遊性を持たせる際に、市外からの利用者と市内からの利用者への発信の見せ方に工夫がいるであろうということである。

## 今後の課題、展望

今年度は駅から徒歩または公共交通機関で訪れることができるエリアが中心であった。今後は、より市域全域に波及できる魅力発信やきっかけづくりを進めていく。またSNSのアカウント作成なども行い、松任の情報発信をしていくと共に、松任に愛着のある若者を育てていくことが重要であると考えられる。



観光プラン動画でのカフェ店舗紹介シーン